

令和8年4月20日に発生した岩手県三陸沖を震源とする  
地震に関する住民調査について



内閣府(防災担当)

# 岩手県三陸沖を震源とする地震に関する住民調査について

## 目的

○令和8年4月20日に発生した岩手県三陸沖を震源とする地震及び津波の発生並びに4月20日の「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の発表を背景として、津波からの避難実態並びに「北海道・三陸沖後発地震注意情報」に対する住民の意識等の調査・分析を行うため、アンケート調査を実施

## 調査概要

期間：2026年5月

対象：北海道、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県のうち、

「北海道・三陸沖後発地震注意情報発信時に防災対応をとるべき地域」に指定されており、かつ太平洋沿岸に位置する市町村に居住していた住民

(津波警報が発令された北海道・青森県・岩手県より各1,000人、その他の県より各200人、合計3,800人回収 )

方法：オンライン調査

項目：●北海道、青森県、岩手県の3道県に居住していた住民

※津波警報が発表された3道県が対象

1. 津波警報と避難指示について
2. 避難行動について
3. 今回の津波警報について

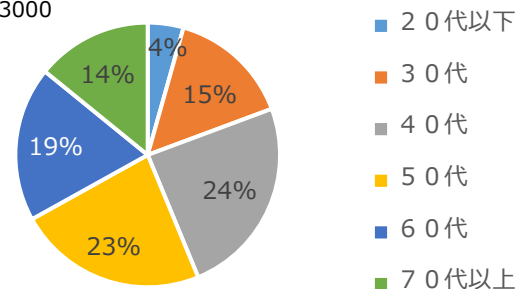
●北海道、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の7道県に居住していた住民

※「北海道・三陸沖後発地震注意情報発信時に防災対応をとるべき地域」に指定されている7道県が対象

4. 防災対策について

北海道、青森県、岩手県の3道県の年代内訳

n=3000



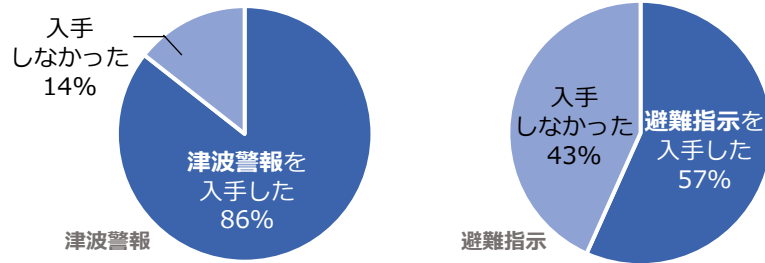
# 調査結果 1. 津波警報と避難指示について

- ・津波警報を入手した人は約9割、避難指示を入手した人は約6割という結果であった。
- ・「津波警報を見聞きして何を気にしたか」について、どの年代においても「津波の規模や到達時間がどれくらいか」が多かった。
- ・「津波警報と避難指示の入手手段」については、どの年代も概ね「テレビ」「防災行政無線」が多いほか、防災情報を「アプリ」や「メール」で入手した人も多く、スマートフォンなどを活用し、手元でいつでもすぐに確認できる利便性の高い情報収集手段が選ばれていることがうかがえる。

## Q. 津波警報や避難指示を入手したか

※「ハザードマップ上で津波の浸水想定区域にいた」と回答した人が対象

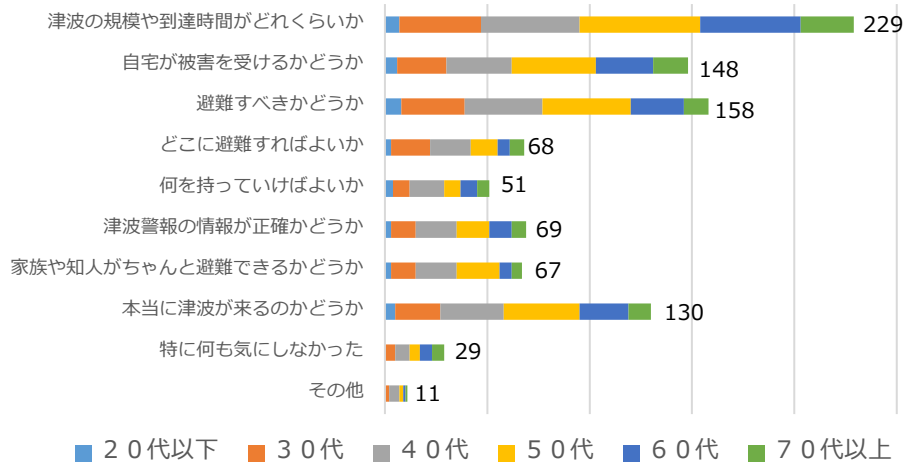
n=464



## Q. 津波警報を見聞きして何を気にしたか

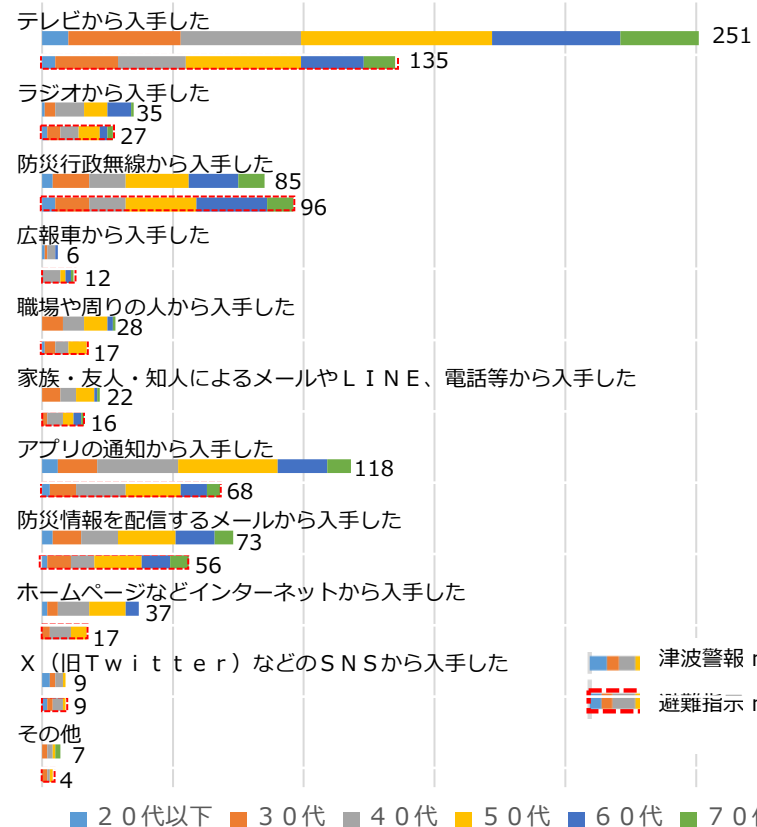
n=397 ※複数回答

0人 50人 100人 150人 200人 250人



## Q. 津波警報や避難指示の情報をどこから入手したか

0人 50人 100人 150人 200人 250人 300人

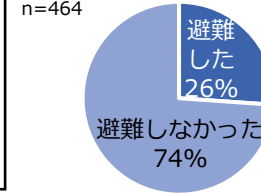


# 調査結果 2. 避難行動について

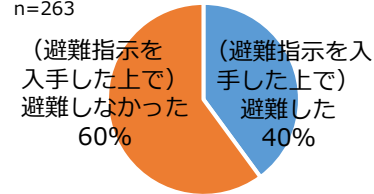
- ・避難したと回答した人は全体で26%であった。
- ・避難した理由として、どの年代も「津波注意報・警報を聞いたから」が最も多く、70代以上では「市町村から避難指示や避難の呼びかけを聞いたから」という回答も多かった。

## Q. 津波に備えて避難をしたか

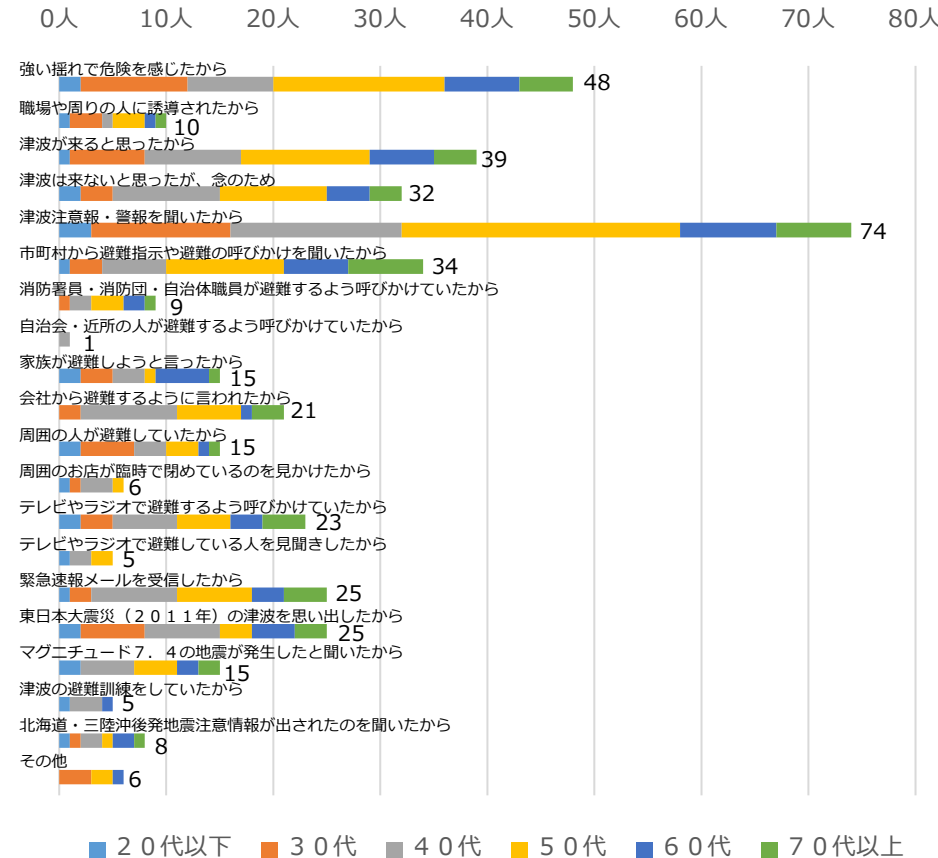
浸水想定区域内にいた人  
n=464



避難指示を入手した人  
n=263

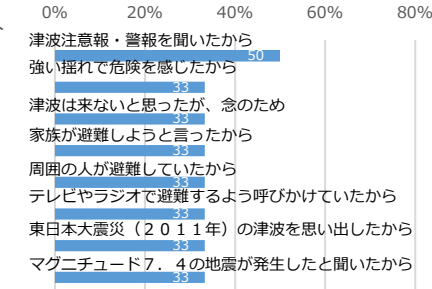


## Q. 避難した理由 n=121 ※複数回答

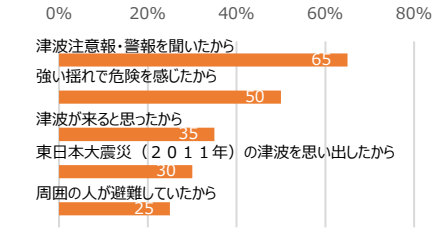


## Q. 年代別にみた主な理由（上位5つ）

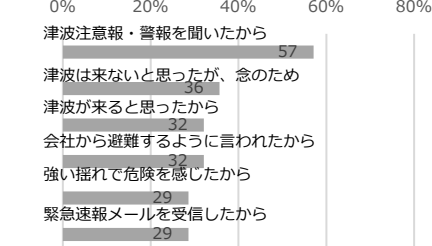
### 20代以下



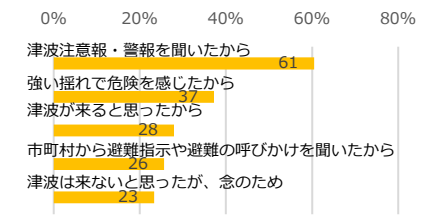
### 30代



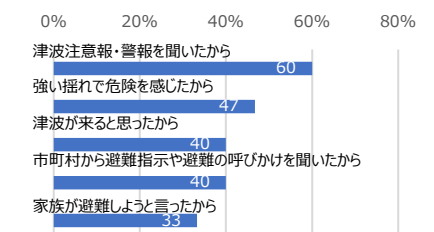
### 40代



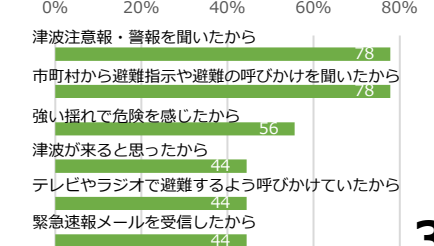
### 50代



### 60代



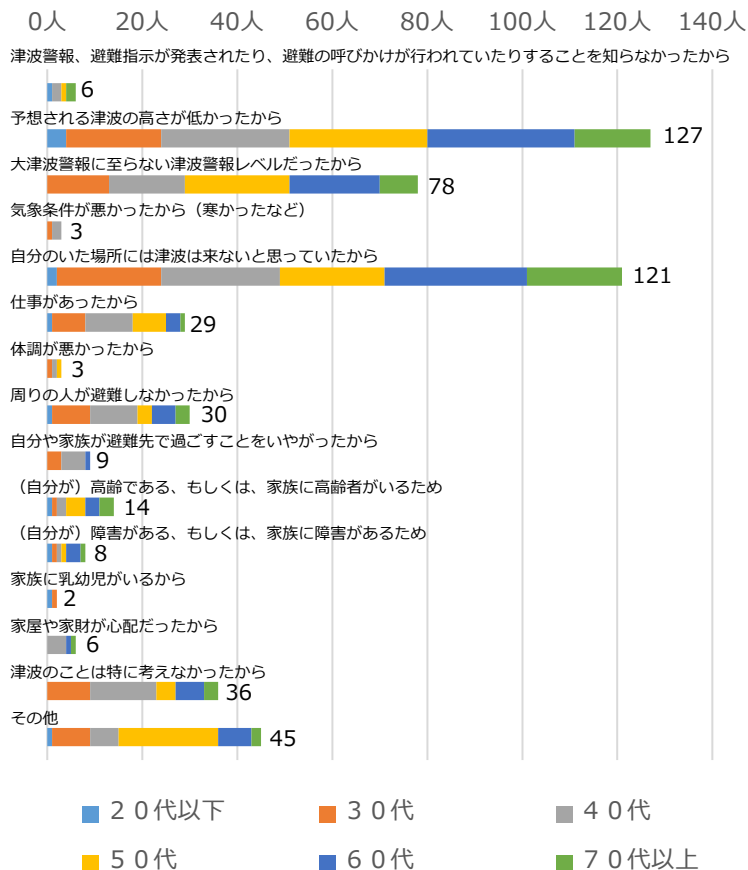
### 70代以上



# 調査結果 2. 避難行動について

- ・避難しなかった理由として「予想される津波の高さが低かったから」「自分のいた場所には津波は来ないと思っていたから」「大津波警報に至らない津波警報レベルだったから」が上位であった。70代以上においては「自分のいた場所には津波は来ないと思っていたから」が過半数であった。
- ・50代以外の全ての年代で「周りの人が避難しなかったから」が上位の理由として挙げられている。

## Q. 避難しなかった理由 n=343 ※複数回答



## Q. 年代別にみた主な理由（上位5つ）



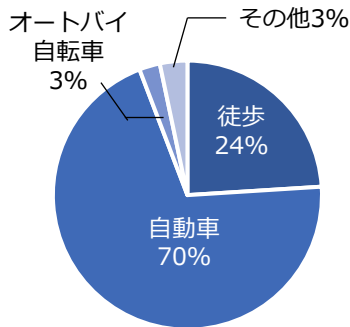
※その他は除く

# 調査結果 2. 避難行動について

- 「避難手段」については、「自動車」と回答した者が全体の7割であった。
- 「避難先にたどり着くまでにかかった時間」として、全体的に自動車避難より徒歩避難の方が早く避難先へたどり着いている結果であった。
- 「自動車で避難した理由」としてどの年代でも「避難先が遠いため」との回答が多かった。
- 自動車避難の約5割が渋滞に遭遇していた。

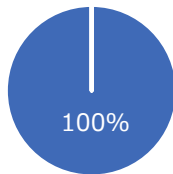
## Q. 避難手段について

n=121

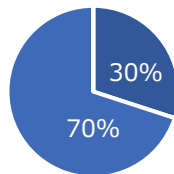


## (年代別)

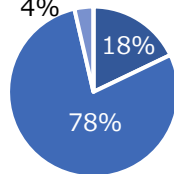
20代以下 n=6



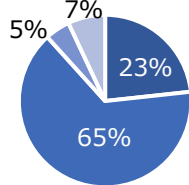
30代 n=20



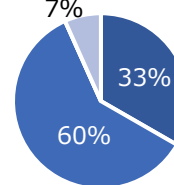
40代 n=28



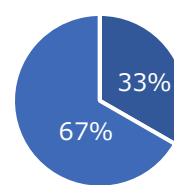
50代 n=43



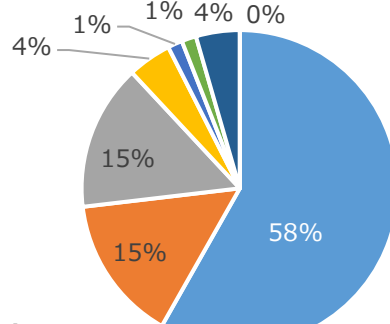
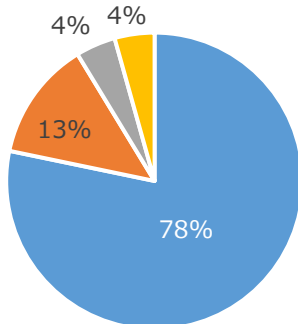
60代 n=15



70代以上 n=9



## Q. 避難先にたどり着くまでにかかった時間

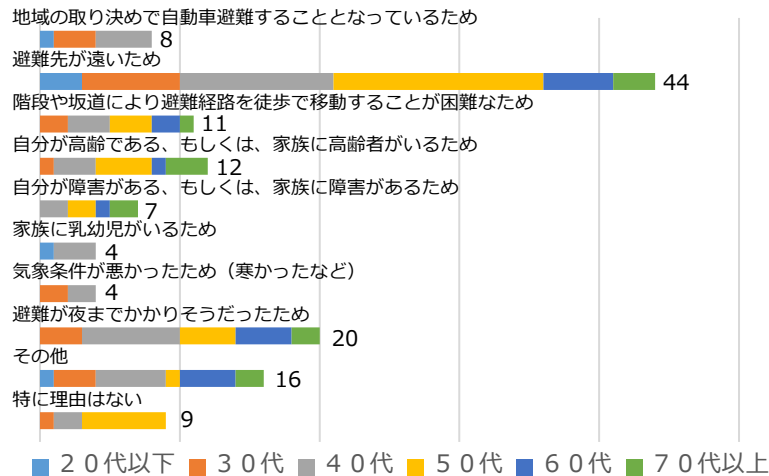


※「時間は覚えていない」と回答した人を除く

## Q. なぜ自動車で避難したのか

n=85 ※複数回答

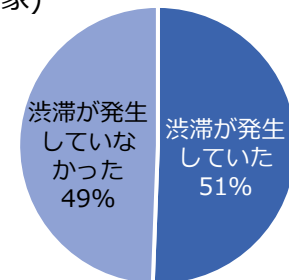
0人 10人 20人 30人 40人 50人



## Q. 避難時に渋滞は発生していたか

n=85

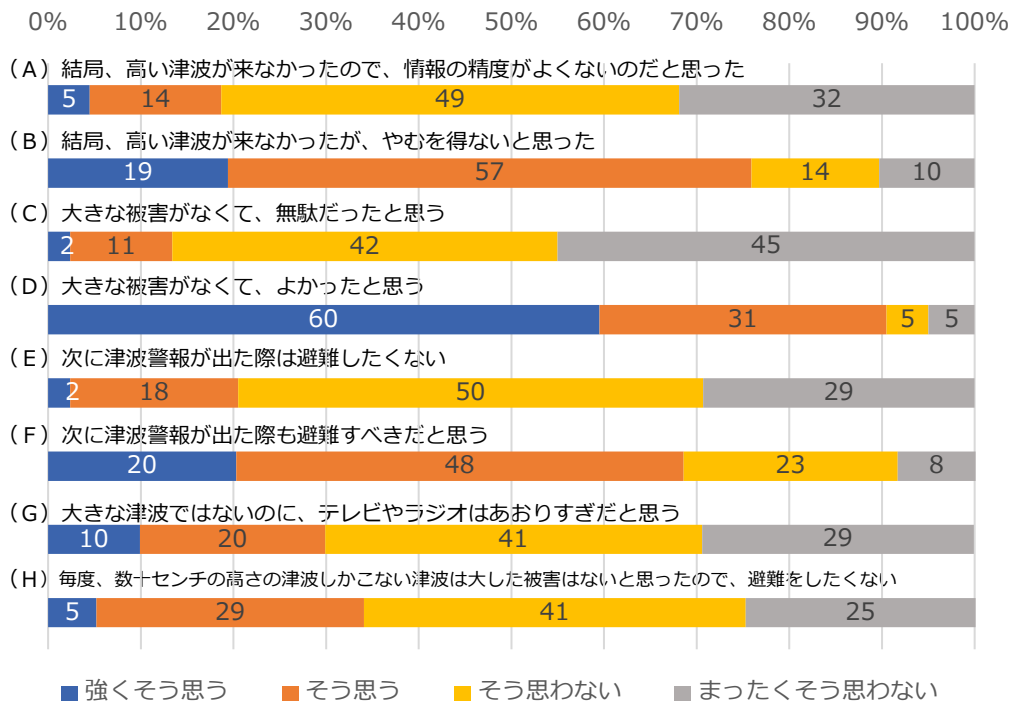
(自動車避難者が対象)



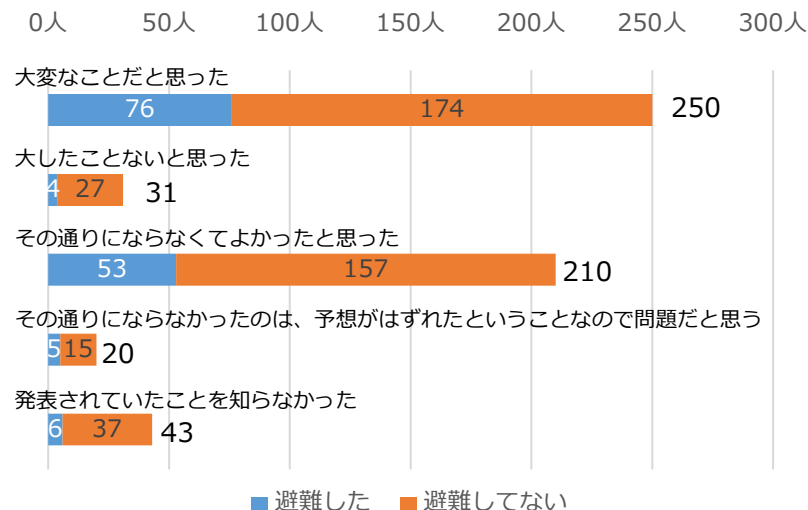
# 調査結果 3. 今回の津波警報について

- ・今回の津波警報に対する意識として「(D) 大きな被害がなくて、よかったと思う」と回答した人が約9割と多く、次いで「(B) 結局、高い津波が来なかったが、やむを得ないと思った」「(F) 次に津波警報が出た際も避難すべきだと思う」が上位であった。
- ・津波予想高さ最大「3m」の発表に対する意識として「大変なことだと思った」との回答が最も多かったが、大変なことだと思っても約3割しか避難しておらず、必ずしも避難行動に結びついているものでもなかった。

## Q. 今回の津波警報についてどのように思ったか n=464



## Q. 津波予想高さ最大「3m」の発表を聞いてどう思うか n=464 ※複数回答

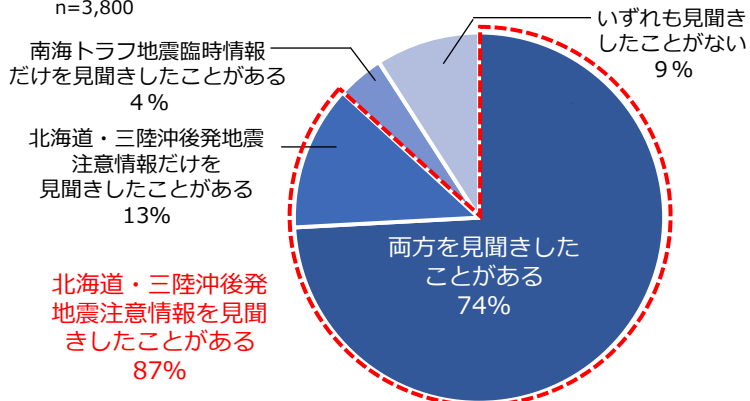


# 調査結果 4. 防災対策について

- 「北海道・三陸沖後発地震注意情報を見聞きしたことがある」と回答した人は約9割と多かった。
- 北海道・三陸沖後発地震注意情報発表の受け止めでは「戸惑いはなかった」と回答した人が5割であった。
- 特別な注意の呼びかけに対し、何らかの対応を行った人及び、日頃から備えがあるため特に何もしていないと回答した人を合わせると全体の6割半ばであった。

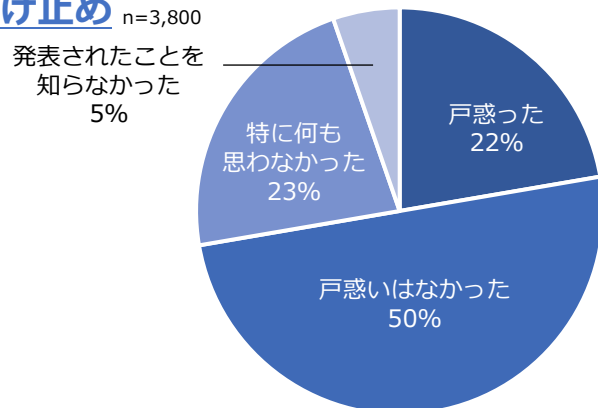
## Q. 北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報の認知度について

n=3,800



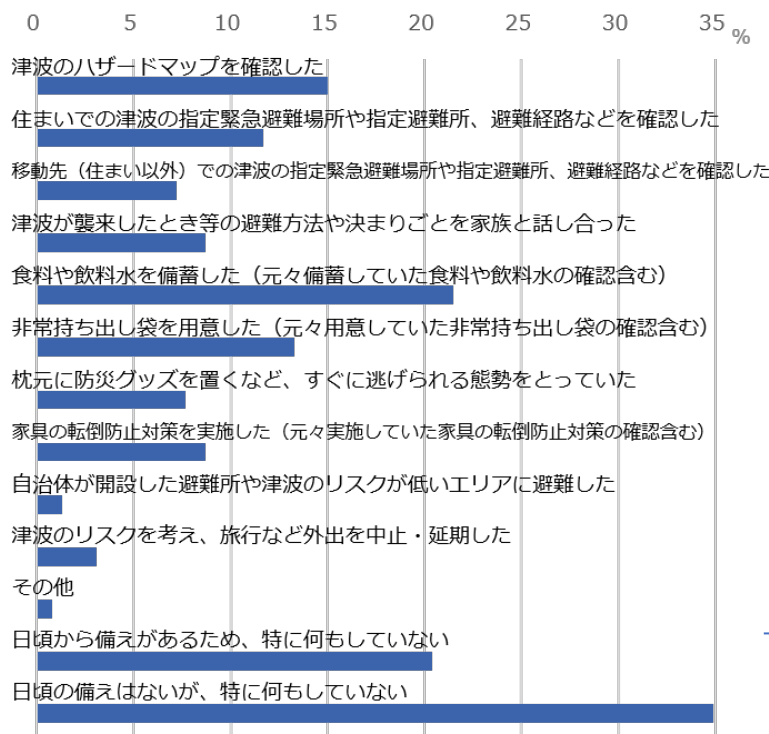
## Q. 北海道・三陸沖後発地震注意情報発表の受け止め

n=3,800



## Q. 注意情報に伴う特別な注意の呼びかけに対する対応状況

n=3,800 ※複数回答



何らかの対応を行った人  
約45%

対応数内訳	%
1項目	21.0
2項目	9.6
3項目	6.4
4項目	3.3
5項目	2.1
6項目	1.1
7項目	0.5
8項目	0.2
9項目	0.2
10項目	0.2
11項目	0.0
日頃から備えがあるため、特に何もしていない	20.4
日頃の備えはないが、特に何もしていない	34.9

# 調査結果のまとめ

## 調査結果 1. 津波警報と避難指示について

- ・「津波警報と避難指示の入手手段」については、どの年代も概ね「テレビ」「防災行政無線」が多いほか、防災情報を「アプリ」や「メール」で入手した人も多く、スマートフォンなどを活用し、手元でいつでもすぐに確認できる利便性の高い情報収集手段が選ばれていることから、多様な媒体を用いて防災情報を発信することが重要である。

## 調査結果 2. 避難行動について

- ・避難した人の割合は全体で26%であった。
- ・避難した理由ではすべての年代において「津波注意報・警報を聞いたから」が最も多かった。また、高齢層になるにつれて「市町村から避難指示や避難の呼びかけを聞いたから」と回答した人が多く、行政からの呼びかけが避難行動を促すうえで有効であることがわかった。
- ・避難手段では「自動車」を利用した人が7割と多かった。また、自動車避難者の約5割が渋滞に遭遇していた。
- ・津波からの円滑な避難に向けて、地域の実情に応じて避難方法を事前に取り決め、住民に避難ルールの周知・浸透を図る必要がある。

## 調査結果 3. 今回の津波警報について

- ・津波警報に対する意識として「大きな被害がなくて、よかったと思う」が約9割と多く、次いで「結局、高い津波が来なかったが、やむを得ないと思った」「次に津波警報が出た際も避難すべきだと思う」が多く、津波警報を重要な情報として受け止め、事前に避難行動を取ることの必要性を認識していることがうかがえる。
- ・一方で津波予想高さ最大3mの発表を「大変だ」と思う人が多かったにもかかわらず、実際に避難したのは約3割程度であった。
- ・津波警報の重要性を理解し、避難意識の向上を図ることが必要である。

## 調査結果 4. 防災対策について

- ・北海道・三陸沖後発地震注意情報は約9割に認知され、情報発表に対して「戸惑いはなかった」「特に何も思わなかった」との回答が約7割と、多くの人への周知が進んでいることが伺える。
- ・特別な注意の呼びかけに対して何らかの防災対策を行った人と、「日頃から備えがあるため、特に何もしていない」と回答した人は全体の6割半ばであった。
- ・注意情報の認知度は向上しているが、事前の備えの重要性についての継続的な周知が必要である。